令和7年度　宮崎県立都城さくら聴覚支援学校　学校関係者評価

４段階評価　「４…期待以上である (できている)」「３…ほぼ期待どおりである(ほぼできている) 」「２…やや期待を下回る(あまりできていない)」「１…改善を要する(できていない)」 ※（ ）は６年度の評価

学校目標	幼児・児童・生徒の個性を重んじ、一人一人の障がいの状態や発達段階、特性等に応じた指導及び支援を行い、その可能性を最大限に伸ばすことで、自立し社会参加できる人間の育成を目指す。
目指す学校像	(1)子供たちの可能性を引き出し個性を育む学校　①幼小中高の一貫教育の推進。発達段階・実態に即した指導法の工夫・改善　②異なる価値観を認める心、互いを尊重し認め合う心の育成　③健康に過ごせる環境の確保と充実 (2)子どもたちが夢を描き、その夢を叶えられる学校　①発達段階に応じた言語力・基礎学力の向上　②キャリア教育の充実。多様化する生徒一人一人の希望進路への対応　③施設・設備等、適切な教育環境の確保 (3)職員がやり甲斐をもって、互いにいきいきと過ごすことのできる学校　①研修時間の確保による教職員の専門性向上　②組織的かつ機能的な学校運営　③働き方改革の推進 (4)聴覚障がい教育のセンター的役割を果たす学校　①家庭、関係機関との連携強化　②地域における聴覚障がい児教育のセンター的機能の発揮　③開かれた学校づくりの推進
R7年度経営ビジョン	「温故置新」～創立98年　次の100年に向けこれまでの積み重ねをより良い形で置き換えていく～ (1)「新学習指導要領」に則った教育改善　①教育課程のPDCAサイクル確立（評価含む）　②自立と社会参加に向けた教育の充実 (2)自己肯定感と人権意識の醸成　①困難に立ち向かう諦めない強い心の育成　②互いの差異や個性を認め合い尊重する気運の醸成 (3)社会の変化にあわせた学びの環境整備　①適切なICT機器活用による教育活動の再構築　②地域とともにある学校づくりの推進 (4)働く幸せを実感できる職場の環境整備　①メリハリのある働き方の推進　②コンプライアンスの徹底

評価項目	評価指標	自己評価	保護者評価	学校の自己評価（成果・課題等）	委員評価	学校運営協議会委員からの感想並びに提言等
（1）子供たちの可能性を引き出し個性を育む学校	子供たちの各課題に応じた分かりやすい授業が実施できていますか。	3.0 (2.9)	3.3 (3.4)	実態に応じた段階的な課題を設定するなど、個々に支援を工夫しながら授業を行っている。また、授業終わりの振り返りやワークシートを活用した繰り返しの学習を通して内容の定着に務めている。主体的な学びにつながるような課題設定の工夫に今後取り組みたい。	3.3 (3.5)	・ 学部を超えた子どもたちの「縦のつながり」や、下の子が上の子に憧れる姿が非常に素晴らしい。幼小中高の一貫の充実は、御校の強みだと感じる。さらに子どもたちが主体的に計画した取組が増えると良いと思う。 ・主体的な学びにつながる課題設定は中々容易ではないと感じるが、今後の先生方の取り組みに期待している。 ・障害のある先生がロールモデルとして存在することが、子どもたちの大きな力になっている。
	幼小中高で連携し、一貫性のある指導が実施できていますか。	2.7 (2.7)	3.1 (3.2)	自立活動においては、指導教諭を中心に指導内容を整理した「聞こえのノート」の改訂に取り組んでいる。聴覚障がい教育の要になる部分でもあるので、学びの連続や指導の発展など効果的な活用について実践を通して取り組んでいきたい。	3.7 (3.3)	
	自分の大切さとともに他の人の大切さを認め、人権や社会的ルールを踏まえた行動ができるような指導ができていますか。	3.1 (3.1)	3.3 (3.0)	職員の人権意識の向上を図るため、校内の研修を実施し、外部での研修やオンデマンドによる研修等にも積極的に参加している。「命を大切にする教育」について道徳や学級活動の時間において学級の課題や実態に応じた指導を行っている。	3.3 (3.3)	
	施設や学校設備（遊具含む）の整備や環境美化が十分なされていますか。	3.0 (3.0)	3.0 (3.0)	定期的な点検により遊具の修繕や設備の交換・修理を行っている。本年度は老朽化による遊具の破損箇所の修繕を行っており、今後も子供たちの安全を優先した整備に取り組んでいきたい。	3.3 (3.3)	
	感染症などの病気の予防と対策が徹底されていますか。	3.2 (3.2)	3.4 (3.1)	各学級において教室の換気や気温調整など環境の調整にこころがけ,感染症の拡大防止に努めたため、校内での大きな感染拡大も見られなかった。保護者への呼びかけもおこない養護教諭と連携しながら体調管理にも務めることができた。	3.3 (3.3)	
	災害への対応について、適切な行動の指導や必要な準備がなされていますか。	3.2 (3.1)	3.6 (3.2)	電源が遮断された状況を想定した避難訓練を実施した。放送機器やモニターが使えない場面での情報伝達や個々の判断力など課題を意識できる訓練となった。小中学部においては不審者対応訓練を児童生徒とともに行い、体験を通して、身を守る行動について考える機会となった。	3.3 (3.1)	
（2）子どもたちが夢を描き、その夢を叶えられる学校	授業において、言語力や基礎学力の向上を意識した指導が実施できていますか。	3.1 (3.0)	3.3 (3.3)	授業における新出語句や重要語句について確認の時間を設定するなど学校全体で言語力の向上に取り組んでいる。文化祭、お話発表会（幼小学部）、弁論（高等部）では、教科指導と連携させながら、総合的に言語力の向上を意識して取り組んでいる。	3.3 (3.1)	・ICTに関しては、急な変化は様々な課題が出てくる。地域の小学校でも三歩進んで二歩下がるという状況である。焦らずじっくりと進めてほしい。 ・情報収集に個人個人で差があると思われる。情報社会の中で生きていく児童生徒が、自ら情報を得てそれを上手に活用できる人になって欲しいと願っている。 ・卒業生が社会でどう支えられているかを知る機会になった。当センター（サポート施設）としても、より噛み砕いた支援を考えていきたい。
	わかりやすい教材教具の工夫や配慮が実施できていますか。	3.0 (3.0)	3.5 (3.3)	新聞や雑誌、ネットの記事など日常の話題を活用しながら、興味や好奇心をもって学習に取り組めるよう工夫を行っている。	3.3 (3.4)	
	行事や体験学習などにより、豊かな経験を広げることができていますか。	3.1 (3.1)	3.3 (3.4)	教科指導との関連や事前、事後の指導の工夫を通して、より主体的な体験になるよう計画している。	3.3 (3.4)	
	個々の実態に応じた進路指導が実施できていますか。	3.0 (3.0)	4.3 (3.2)	高等部においてはインターンシップを通して、進路先についての理解を深めると共に、自分の特性を知り、将来像を具現化できるよう支援に取り組んでいる。今後は各学部のキャリア教育を充実させながら、早期からの進路指導に取り組んで行きたい。	3.3 (3.4)	
	ＩＣＴの活用を含め、時代に即し、障がいに対応した十分な教育環境が整っていますか。	2.8 (2.9)	2.9 (3.0)	情報担当を中心に研修や研究公開に参加し、授業への活用を図れるよう校内へ情報提供を行った。中学部においては、期間を限定し、家庭での活用を目的としてタブレットの持ち帰りを実施した。	3.3 (3.0)	
（3）職員がやり甲斐をもって、互いにいきいきと過ごすことのできる学校	障がいの実態に応じた指導・支援が日々実践できていますか。	2.9 (3.0)	3.3 (3.0)	自立活動を中心に聞こえの状態を把握しながら教科指導や支援に当たっている。発達に特性のある子供も在籍しており、多様な視点からの実態把握やアセスメントに基づいた指導に心がけている。	3.3 (3.3)	・専門性を維持・向上させるための様々な研修や手話研修を計画的にしている点は非常に素晴らしい。 ・指導教諭を中心にしたOJTを行っていることは、学校全体の教育の質を担保する上で大きな安心感につながっていると思う。 ・ＩＣＴを活用した業務改善が進んでいる。職員の心身の健康が日々の授業を支えていることを大切に取り組んでほしい。
	（職員のみ）研修を実施し、職員の専門的指導力の向上に取り組めていますか。	3.1 (3.2)		聴覚障がい教育の経験に応じた基礎研修（聴覚障がいの理解や配慮事項等）や手話研修を実施し、それぞれのニーズに応じて専門性の確保に取り組んでいる。	3.3 (3.3)	
	（職員のみ）校内でのＯＪＴを推進し、課題に対して組織（各部）で取り組めていますか。	3.1 (2.9)		指導教諭を中心として経験の浅い先生方への授業支援や子供たちに対しての情報保障の補助などを行っている。指導教諭の専門性を生かす県の事業を活用することで、授業で悩んでいることを相談することも「増えている。	3.3 (3.0)	
	（職員のみ）働きやすい環境作りについて取り組めていますか。	2.8 (3.0)		通知表や出席簿の書式の変更など事務処理の簡素化やデジタル化に努めている。また、会議や研修の時間を確保するため時間割の調整を行うなど、自分で使える時間の確保にも努めている。聴覚障がいならではの責任感から、ストレスを感じている職員もあり、一人で抱え込まないような体制作りに取り組んで行きたい。	3.3 (2.7)	
（4）聴覚障がい教育のセンター的役割を果たす学校	学校での様子を懇談や連絡帳等でよく知ることができますか(十分に知らせることができていますか)。	3.1 (3.3)	3.4 (3.3)	連絡帳や通信、懇談等を通じて情報を共有し、保護者からの協力をいただきながら指導当たっている。連絡サービスアプリ（テトル）を使うことで、出欠の連絡や確認が手軽になった。また、行事案内やアンケートの協力などテトルを使った情報提供にも務めている。	3.0 (3.1)	・幼児期からの教育相談が充実していると感じる。また、学校ホームページでも学校の様子がよく分かる。 ・聴覚障がいがあることが分かったお子さんや保護者の方々にとって、また、地域の学校に通学している子どもさんや地域の学校の先生方にとっても、専門性のある先生方との繋がりは、大きな支えである。これからの活躍をますます期待したい。
	子供のことを相談しやすく、ニーズに応じた支援（専門家や関係機関との連携を含む）ができていますか。	3.2 (3.2)	3.1 (3.1)	本年度からスクールカウンセラーに加え、ソーシャルスクールワーカーに来校いただき、家庭支援についても連携しながら取り組むことができた。今後は、定期的な教育相談週間の設定など日常的な取組を重視していきたい。	3.7 (3.0)	
	教育相談体制の充実を図り、地域における聴覚障がい児教育のセンター的役割が果たせていますか。	3.2 (3.1)	3.2 (3.1)	宮崎・東諸県地区聴覚相談支援センターでの地域支援を本年度から本格的に実施を始めた。職員が週３日常駐することで、地域の支援はもとより、本校との連携も深まってきている。今後もよりよい支援ができるよう体制の改善に努めていきたい。	3.7 (3.1)	
	地域に学校の取組や必要な情報を伝えることができていますか。	3.1 (2.9)	2.9 (2.8)	民生委員の方々など地域の方々の学校見学を積極的に受け入れている。横市地区のイベントでの学校紹介や横市地区の体験活動の子供たちへの案内など地域とつながれるよう務めている。今後、そのような取組を保護者に伝える工夫に務めたい。	3.3 (2.9)	